



地域活動も全力投球

新型コロナ禍の子ども食堂活動

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が解除されても、私たちは、これまでに経験したことのない新しい生活様式で暮らさなければならなくなりました。

習志野市議会も感染症拡大防止のため、マスク着用、議場の分散、頻繁に換気、審議順の変更、時間の短縮などの厳しい対策を取って審議が行われました。議案は、ほぼ全て新型コロナウイルス感染症に対応するもので、子どもたちへの支援策もたくさんありましたが、子どもたちへの支援は議会以外の場所でも行われています。

私が袖ヶ浦地域で仲間と活動する「子ども食堂 袖っこテーブル」は、創設から3年半が過ぎましたが、今回のような危機は初めてです。普段、子ども食堂は、地元の袖ヶ浦公民館の調理室と会議室を無償で貸していただいて、安価で子どもたちに食事を提供し、食後は地域ボランティアによるお話し会やゲームをするなど、子どもたちの交流が図られています。ところが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために公民館の使用ができなくなり、子ども食堂の活動も休止を余儀なくされました。子ども食堂は単に食事を提供するだけでなく交流の場もあるので、子どもたちにとって、活動の休止はとても大きな痛手となりました。

また、集まる子どもたちの家庭の環境・食生活は多種多様であるため、子ども食堂の活動休止中の子どもたちの健康状態について、お節介かもしれませんが、私たちは心配していました。



(袖ヶ浦公民館にて)

そこで「何か、できないか。」と行ったことは、生協が無償で提供してくださる食品を準要保護の児童にお配りしたこと。私たちには児童の個人情報が入手できないため、地元の小学校の教頭に相談したところ、学校が間に立ってお知らせをするという協力を即座に得られました。学校も子ども食堂の活動を評価してくれているのだと感じ、感謝しました。

6月からの子ども食堂は、緊急事態宣言が解除されても公民館が使えないため、自治会の調理室で弁当を作り、子どもたちが取りに来て、自宅で食べてもらっています。おかずの種類が多く栄養のバランスのとれた弁当が、安価であることもあって、本当に喜ばれています。8月からは公民館の調理室を使わせていただきますが、食事をすることはできないため、やはり弁当をお配りします。

子ども食堂の活動は地域のボランティアや公民館活に支えられ、また学校にも協力して頂いて続いています。そして、活動開始以来ずっと「長生村のトマト」を送り続けてくれている仲間もいます。これらすべての方がたに感謝と称賛を送らせて頂きます。

高齢者ふれあい元気事業などの中止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、市や地域のお祭りなどの行事が次々に中止となっています。このようなことは初めてのことだと思います。この夏、中止となった行事は次の通り。

(1) 習志野市総合防災訓練



当初、9月6日の予定でした。毎年台風・大雨などの自然災害が大きくなっていますし、今年も既に熊本県・山形県などが大雨による大きな被害を受けています。例年より多くの市民の参加に

よる防災訓練が行われるべき状況の中で、防災訓練が行われないことは、大変不安です。このような中で災害が起こった場合、個人個人の防災意識・避難行動が頼みの綱となります。地域や市の独自の備えも、さらに「質」を高める必要があるのではないのでしょうか。

(3) 高齢者ふれあい元気事業

「高齢者ふれあい元気事業」は高齢者を敬愛し、地域との交流を促進するため、地域ごとに実施するふれあい元気事業を通して、高齢者の健康維持、福祉の増進に寄与することを目的としています。この事業に対しては、かかる費用に対して市の補助金があるものですが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、事業を中止とし、補助金交付は停止となっています。

事業の中止は止むを得ませんが、高齢者の健康維持、福祉の増進という観点からの取組が何もされずに、高齢者の方個人の行動に任されている事には問題がありますね。

原爆被爆者慰霊の祈り

8月6日、8月9日に秋津の平和の広場で原爆被爆者慰霊祭がありましたが、今年は祈念式典が行われず、朝から夕方まで献花台が設けられていました。私も習志野平和のつどい実行委員会を代表して、献花と折り鶴献納を行いました。

